

保幼小中一貫教育だより



豊能の風

発行：豊能町教育委員会 第5-1号 R1.10.1

彩都の丘学園 教育委員会先進校視察研修 その1 (令和元年8月26日(月))

小中一貫教育の先進的な取組みをされている学校や市町村を視察させていただくことにより、本町の取組みに活かすため、「教育委員の先進校視察」を8月より実施することとしました。視察させていただいた内容は「豊能の風」でお知らせいたします。

《学校紹介—彩都の丘学園》

平成23年4月開校、施設一体型小中一貫校、
総工費24億4千万円、開校時児童生徒数は71人、
現在は1200人を超える大規模校
敷地面積：34300㎡、グラウンド：12665㎡



第1回目の視察研修は、8月26日(月)教育委員会会議終了後に、箕面市では2校目となります施設一体型小中一貫校「彩都の丘学園」を視察させていただきました。その内容を2ページにわたってご紹介いたします。

今回は町長、副町長も一緒に参加されました。次回からは、校長園所長会、PTA会長会にも呼び掛けています。



たたいても壊れない
クラスの名札プレート



開放感のある下足箱



広い中庭

(感想抜粋—川村委員)

朝のスタートを早め、8時20分から朝学習を開始、15時10分に授業を終えて、放課後の活動の時間を確保するという試みも始まっており、とにかく皆で考えやってみる姿勢は見習いたいです。

人口増に伴う教室の増設と将来の人口減に対応する校舎づくり、エアコンが整備された校舎、体育館はこれからの子ども達の教育環境として必要であり、低コストで新築を実現するノウハウは豊能町にも取り入れたいと感じました。



(感想抜粋—坂口委員)

町も学校の校舎も新しく綺麗で、とても夢の広がる「学校」でした。

4年生を中心に行われる前期集会には、興味がありました。5、6年生が制服を着て、少し上級生の顔をして、前期ブロックの子たちに読み聞かせをするなんてとても素敵です。3段階に分けられたブロック毎の特徴を生かした取り組みや、連続性が子ども達には必要だと感じました。



小中学生が利用する理科室



清潔感のあるトイレ



広々とした廊下



上下に動く可動式黒板



次ページにつづく